

「ワークサンプル幕張版(MWS)」新規3課題による効果的なアセスメント及び補完方法の獲得に関する調査研究

＜研究担当者＞

| | |
|-----------|-----------|
| 大谷 真司 | 渋谷 友紀 注2 |
| 藤原 桂 | 井口 修一 注2 |
| 田村 みつよ 注1 | 野澤 卓矢 |
| 武澤 友広 注1 | 引間 由香 |
| 知名 青子 注1 | 山口 佳陽子 注2 |
| 村久木 洋一 注1 | |

注1:2022年度担当、注2:2023年度担当

はじめに

- 障害者職業総合センター研究部門では、ワークサンプル幕張版(以下「MWS」という。)を開発し、2007年度より13種類の課題(以下「MWS既存課題」という。)を市販開始。アセスメント、作業遂行力の向上に向けた支援など、様々な就労支援機関等で活用。

➤ 2019年度にMWSの新規課題(給与計算、文書校正、社内郵便物仕分)(以下「MWS新規課題」という。)を開発。2020年度末より市販開始。



給与計算



社内郵便物仕分



文書校正

本調査研究の目的

- MWS新規課題は、「手続きを理解するための心理的ハードルの高さ」、「結果の処理に関する時間的コスト」等の支援者への負担感の増加が課題となっていた。
- 「『ワークサンプル幕張版(MWS)』新規3課題による効果的なアセスメント及び補完方法の獲得に関する調査研究」(2022～2023年度)を行うことにより、支援者の負担軽減策としてMWS新規課題の活用方法を分かりやすく解説した「活用ハンドブック」を作成することとした。

研究計画

| | 研究活動 | 内 容 |
|---|---------------------|--|
| ① | 活用状況質問紙調査 | 地域の就労支援機関を対象にMWS新規課題の活用方法等を調査。 |
| ② | 活用事例に関する ヒアリング調査 | 地域の就労支援機関からMWS新規課題の活用事例を収集。 |
| ③ | ハンドブック（素案） の試作 | 活用状況質問紙調査等の結果をもとにハンドブック（素案）を試作。 |
| ④ | 専門家へのヒアリング | MWSへの知識を有する専門家から、試作したハンドブック（素案）への意見を聴取。意見に基づきハンドブック（素案）を改良。 |
| ⑤ | 試用評価 | 改良を加えたハンドブック（素案）（以下「ハンドブック（案）」という。）を地域の就労支援機関に提供し、支援を行う中でハンドブック（案）の有効性等の評価を行うよう依頼。評価結果に基づきハンドブックを完成。 |

①活用状況質問紙調査(結果概要)

～ 現在、MWS新規課題はどのように活用されているのか? ～

➤ 回収率:

地域センター 92.3% (85人、48か所の回答)

その他事業所 60.9% (14人、14か所の回答)

➤ 支援に活用されている課題

| | 社内郵便物仕分 | 給与計算 | 文書校正 |
|--------|---------|-------|-------|
| 地域センター | 75.3% | 52.9% | 30.6% |
| その他事業所 | 62.5% | 38.5% | 30.8% |

➤ 各課題を活用していない理由 最頻

地域センター 「自機関では課題の適用対象となる利用者がいない」

その他事業所 「課題の実施方法によくわからないところがある」

- 
- ・対象者選定のイメージをつかむことを助ける情報の必要性
 - ・課題実施の習得に時間的余裕がない支援者に向け、負担感の少ない教材を検討する必要性

②活用事例に関するヒアリング調査（概要）

～ 現在、MWS新規課題はどのように活用されているのか？ ～

| 事例 | 障害 | 年齢 | 就業のニーズ | 給与計算 | | 文書校正 | | 社内郵便物仕分 | |
|----|----------------------|-----|--------|------|-----|------|-----|---------|-----|
| | | | | 簡易版 | 訓練版 | 簡易版 | 訓練版 | 簡易版 | 訓練版 |
| A | うつ病 自閉スペクトラム症 | 34歳 | 復職 | — | ○ | | | | |
| B | 適応障害 | 41歳 | 復職 | — | | | ○ | | |
| C | 注意欠如・多動性障害 | 26歳 | 就職 | — | | ○ | | | |
| D | 注意欠如・多動性障害 | 26歳 | 就職 | — | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| E | 注意欠如・多動性障害 | 54歳 | 復職 | — | | | | ○ | ○ |
| F | 自閉スペクトラム症／注意欠如・多動性障害 | 21歳 | 復職 | — | | | | ○ | ○ |
| G | 知的障害 | 22歳 | 就職 | — | | | | ○ | |
| H | 聴覚障害 | 26歳 | 就職 | — | | | | | ○ |
| I | 神経系の疾患（聴力低下） | 24歳 | 就職 | — | | | ○ | | |

- 9事例を収集。給与計算と文書校正では、課題の理解力等に一定レベル以上の能力を有している者が対象。
- サブブックの難しさや、課題の難しさから作業時間が長くなる場合があることなど、活用モデルを作成する際の参考とした。

③ハンドブック(素案)の試作

- 文献調査及び活用状況質問紙調査・ヒアリング調査結果等を参考に活用モデルを作成。
- 活用モデルの内容を具体的に説明する活用事例を作成。
- 活用状況質問紙調査の結果において、活用していない理由として、適した利用者がいないという意見があったことを踏まえると、MWS新規課題の対象者、有効性等に関する情報提供が必要と考えられた。



- 以上の検討により、活用モデル、活用事例、MWS新規課題の概要や実施方法等に関する知識情報を掲載したハンドブック(素案)を試作した。

ハンドブック当初案イメージ



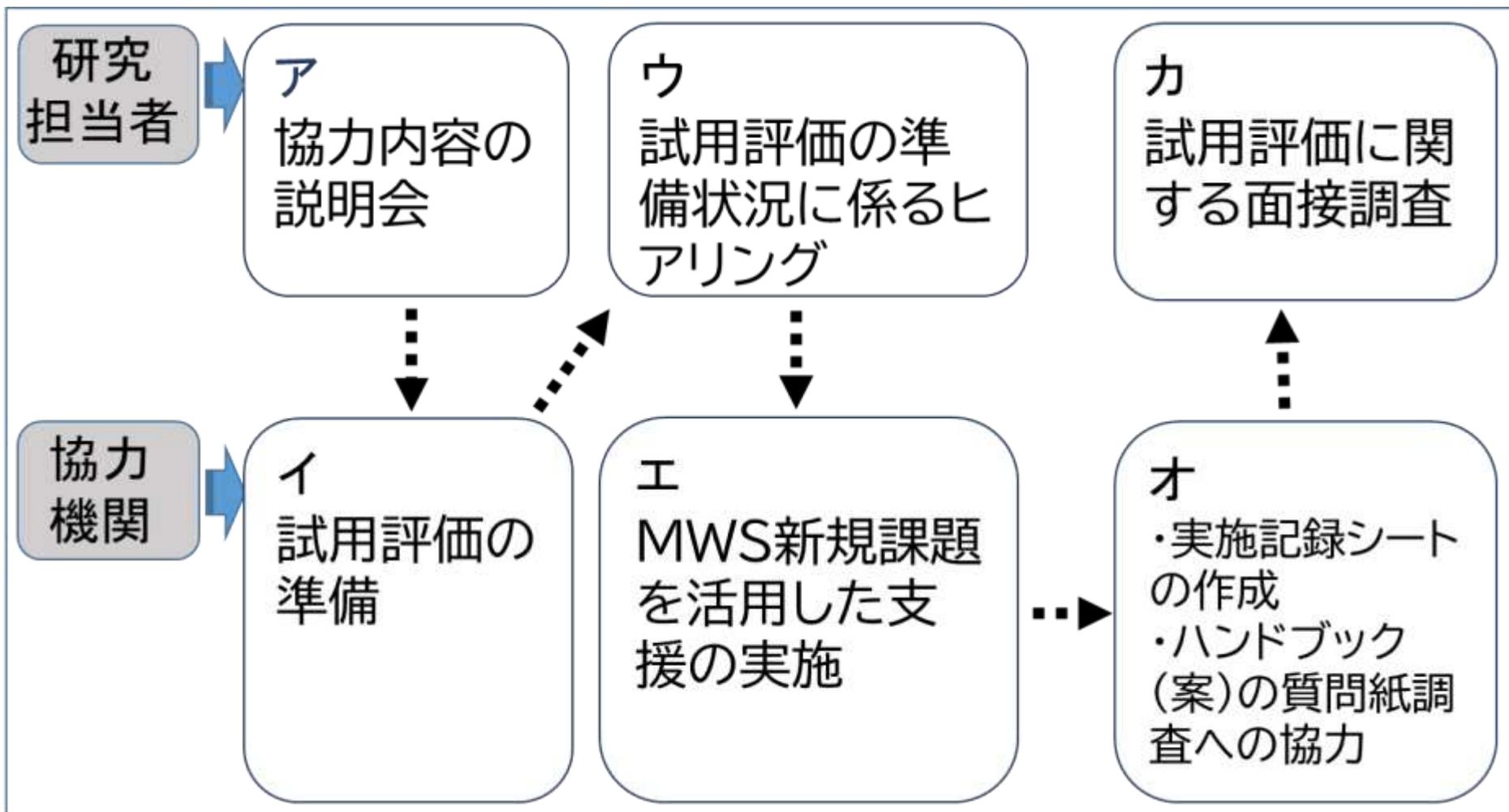
④ハンドブックの内容的妥当性の検討(専門家ヒアリング)

- ▶ 過去にMWSに関する調査研究に参画した3名の専門家に対してハンドブック(素案)への意見を求めるヒアリングを行った。
- ▶ 専門家からは「就労移行支援事業所での活用方法」、「図表による説明」、「対象者の動機付けなどの誘導方法」などを求める意見があった。
- ▶ ヒアリングで聴取した意見を基にハンドブック(素案)に改良を加えた。
- ▶ ハンドブック(素案)の活用事例については、活用事例に関するヒアリング調査で収集した情報を基に、活用事例を作成し掲載した。

⑤試用評価

- ▶ ハンドブック(案)を地域の就労支援機関(以下「協力機関」という。)に提供し、その有効性について評価を求める試用評価を行った。
- ▶ 実施時期
2023年2月～5月の間に実施。
- ▶ 協力機関
就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センターの計3か所。

➤ 試用評価の手順



「職員がハンドブック(案)を読むことによる支援への影響」 (協力機関からの意見)

| 番号 | 意見 |
|----|--|
| ① | ●今後のMWS新規課題の活用について、こういうハンドブックが作られたことで、利用者の様々な側面を見ることができるといことが分かった。今後も利用者には行ってもらおうと考えている。 |
| ② | ●今後、MWS新規課題の活用の幅が広がると思う。社内郵便物仕分以外の課題についても活用してみようと思う。活用方法としては、対象者の職種や可能性などについて、アセスメントというよりも、イメージを持ってもらったり作業体験として使うという方法もあるかもしれないと思った。 |
| ③ | ●法人の中で、MWS既存課題は以前から使っており、MWS新規課題を2年間くらい使っている。しかし、職員全員がMWS新規課題を使えるかというそうではない。慣れていない職員がどうやって使ったらいいかという場合に、ハンドブックがあると使いやすくなるのではないか。 |
| ④ | ●こういったハンドブックがあることで他の職員にも説明ができると思う。また、MWS新規課題を使う職員が増えるということも考えられる。自分にとってもMWS既存課題よりも難しいので、こういったエラーをどうとらえたらいいか、こういう相談の対象者に使えるかという場合も、ハンドブックの事例を見ることで考えやすくなったかと思う。 ●MWS新規課題を行う際には、サブブックを見てくださいという指示、言い方になり、質問があっても同じ返し方になる。しかし、ハンドブックがあることで何のためにMWS新規課題を行うのかを説明しやすくなるのは良いと思う。 |

**利用するメリットへの
気づき**

**利用方法の
バリエーションへの気づき**

**初心者への導入法として
の期待**

活用促進につながる

利用目的の説明資料

ハンドブックの概要

NIVR

**ワークサンプル幕張版(MWS)
新規課題
活用ハンドブック**

～MWS 新規課題の効果的な活用に向けて～

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
NIVR 障害者職業総合センター
NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION
2024.9.3月

はじめにお読みください

このハンドブックはワークサンプル幕張版(MWS)新規課題(以下「新規課題」といいます。)を様々な場面で活用していただくために作成しました。以下、知りたい内容に応じたページをご案内します。必要な箇所からお読みください。

新規課題について知りたい

- 新規課題とは.....1
- 新規課題の特徴.....2
 - 強化された機能.....2
 - 課題の発見と対策.....2
 - 既存課題よりも高い難易度の設定.....3
- 実施方法を知るための参考資料.....4
 - 新規課題の概要を動画により確認したい.....4
 - 新規課題の実施手続きについて知りたい.....4
 - 新規課題の概要を対象者に簡単に説明したい.....4
 - 対象者への難易度の教示や対応等を支援現場で確認したい.....4
 - エラーの内容や解決方法を確認したい.....4
 - ワークサンプル幕張版で採用されているABA法について知りたい.....4
 - ワークサンプル幕張版の背景知識を知りたい.....4
- 新規課題を扱う際の留意事項.....5
 - 課題の難しさとストレス.....5
 - 新規課題を複数組み合わせて使用する.....5
 - 作業の順番を十分に説明する.....6
 - 既存課題を適用する.....6
 - 新規課題を適用する目的を対象者と共有する.....7
 - 難易度を適用する際の留意点.....7
 - 難易度と訓練法の使い分け方.....8
- 対象者の理解力に応じた作業指示.....8

活用方法について知りたい

本書が想定する読者層

新規課題を購入し、実施マニュアルを読んだ方を主たる読者層として想定しています。また、既存課題については知識があるが、また新規課題を購入していないという方も、本ハンドブックにより新規課題の活用方法についてイメージを持っていたら良いでしょう。

なお、障害者職業総合センターホームページに掲載している新規課題の概要の動画(P4)を視聴いただくほか、可能な方は、新規課題の購入時に添付されている「実施マニュアル」とあわせてご覧いただく、理解が深まります。

対象者への対応に迷った時は

適宜申請が求められる.....31
課題への違和感を訴える.....31
課題への理解が進まず時間が経過する.....31
エラーのフィードバックにより不安感を強化した.....32
訓練法への移行の判断に迷う.....32
補充方法の提案を受け入れてもらえない.....33
ネガティブな感情が蓄積される.....33
繰り返しが多量にならない.....34
結果の受け入れで不安定になる.....34

【活用モデル】・【活用事例集】の使い方

【活用モデル】では、新規課題の対象者、使用する場面、目的、効果等を記載しています。自機関での新規課題の活用方法のイメージづくりにご活用ください。

【活用事例集】は新規課題を用いた支援の流れを把握するためのものです。事例ごとに付した障害種類、適用した課題、支援の目的(技能・役割)のパターンを自覚し、自機関での活用シーンに応じて参考にしてください。

●活用モデル.....9
難易度活用モデルと訓練法活用モデルの共通事項.....9
①難易度活用モデル.....10
②訓練法活用モデル.....13

●活用事例集.....16
補充方法の必要性を認識した事例.....16
自身の特性理解と就職への希望を整理した事例.....18
補充方法への自信を深め就職につながった事例.....21
課題に向けて疲労・ストレスへの自覚を持った事例.....23
効果的な支援方法を確立した事例.....25
作業遂行力の向上と補充方法の習得により自覚の獲得につながった事例.....27

ハンドブックの構成

| | |
|--|--|
| <p>● 新規課題について 知りたい</p> | <p>MWS新規課題を活用する上で最低限必要と考えられる情報を記載。</p> |
| <p>● 活用方法について 知りたい</p> <p>▷ 活用モデル</p> <p>▷ 活用事例集</p> | <p>MWS新規課題を適用する対象者像、場面※、目的、効果等を記載。</p> <p>MWS新規課題を用いた支援の流れを把握するために、MWS新規課題を用いた支援事例（活用事例）を掲載。</p> |
| <p>● 対象者への対応に 迷った時は</p> | <p>MWS新規課題を活用する中で、対象者への対応が必要になると考えられる事例を記載。</p> |

※「アセスメント」、「復職に向けた訓練」など職業リハビリテーションの中の過程、場面。

ハンドブックの具体的内容①

MWS新規課題の特徴(難易度の高さ)

➤ 高い難易度の理由を記載

- ・MWS既存課題では明らかにできなかった職場適応上の課題を確認することが可能。
- ・作業遂行力の高い利用者については既存課題よりもモチベーションを持って取り組むことができる。

➤ 既存課題よりも高い難易度の設定

新規課題を行う上では、同時に複数箇所に注意を払い、多くの類似した情報から必要な情報を特定することが必要であるとされています。そのため、新規課題では記憶、注意の集中や配分などの認知的な負荷(いわゆる「課題の難しさ」によるストレス)は、既存課題に比べて高くなっています。このような特徴から、例えば復職に備えてレベルの高い課題を望む対象者からは、課題に対してモチベーションを維持しやすい、やる気を持って取り組めるといった感想が聞かれます。

<課題の難易度と対象者の疲労やストレス状況>



ハンドブックの具体的内容②

活用上の留意点

- 課題ごとに難易度に違いがあることの記載。
- 既存課題との併用が望ましいことの記載。
- 簡易版では訓練版の上位レベルの問題も出題されることの記載。

➤ 簡易版を活用する際の留意点

新規課題の簡易版は、訓練版の下位レベルの問題から上位レベルの問題まで一通り出題されるようになっていきます。簡易版の問題のレベルについては、以下の表をご確認ください。

| | |
|-----------------|--|
| 給与計算 | ・レベル1→レベル4と問題が順番に出題 |
| 文書校正 社内郵便物仕分 | ・下位レベルの問題と上位レベルの問題がランダムに出題 ⇒ 始めから上位レベルの問題も出題 |

ハンドブックの具体的な内容③

課題を選択する際の留意点

- 文書校正は一般的な事務作業のワークサンプルであること。
- 社内郵便物仕分は漢字(宛名)が読める人であれば幅広く対象とすることができること等。

簡易版を使用する目的・期待できる効果・留意事項

使用する目的

給与計算

- ◆ サブブックを読んで、「作業手順を理解する」、「条件に応じてルールを適用する」、「図表を正確に読み取る」、「入力・計算作業を正確に行う」といった作業についての作業遂行力等のアセスメントを行うため。
- ◆ 総務、経理、情報処理などの職業領域での作業遂行力を確認し、就職、復職に向けて適応の可能性を検討するため。

文書校正

- ◆ サブブックを読んで、事務的職業で一般的に求められる「意図と照らし合わせて文章を見直す」、「誤字や表現を修正する」といった作業についての作業遂行力等のアセスメントを行うため。
- ◆ 事務的な職業領域での作業遂行力を確認し、就職、復職に向けて適応の可能性を検討するため。

社内郵便物仕分

- ◆ サブブックを読んで、「企業に届いた郵便物を、宛先に記載された情報に基づき、自分のルールに従って、適切に仕分ける」といった作業における作業遂行力等のアセスメントを行うため。
- ◆ 文字の照合、郵便物や荷物の仕分作業での作業遂行力を確認し、就職、復職に向けて適応の可能性を検討するため。

① 簡易版の用モデル

ハンドブックの具体的内容④

「活用モデル」

- MWS新規課題の活用方法のイメージを与える活用モデルを提示。
- 活用モデルは「3課題×簡易版/訓練版」の6課題について、「実施対象者」、「使用する過程・場面」、「使用する目的」、「使用する効果」、「留意事項」を記載。

① 簡易版活用モデル

簡易版で共通する事項

簡易版は、作業遂行力等の評価としての機能の他に、対象者の強みの把握、自発的な補完行動や補完手段の獲得状況の把握、体験としての機能があるとされています。

使用する過程・場面

- ◆ 主に支援計画を作成するためのアセスメント場面で使用する。

使用する目的

- ◆ 難易度の高い作業における対象者の特性をアセスメントするため。
- ◆ 訓練版を活用したトレーニングを動機付けるため。

使用する効果

- ◆ 手順書やマニュアルを読み込む力を確認できる。

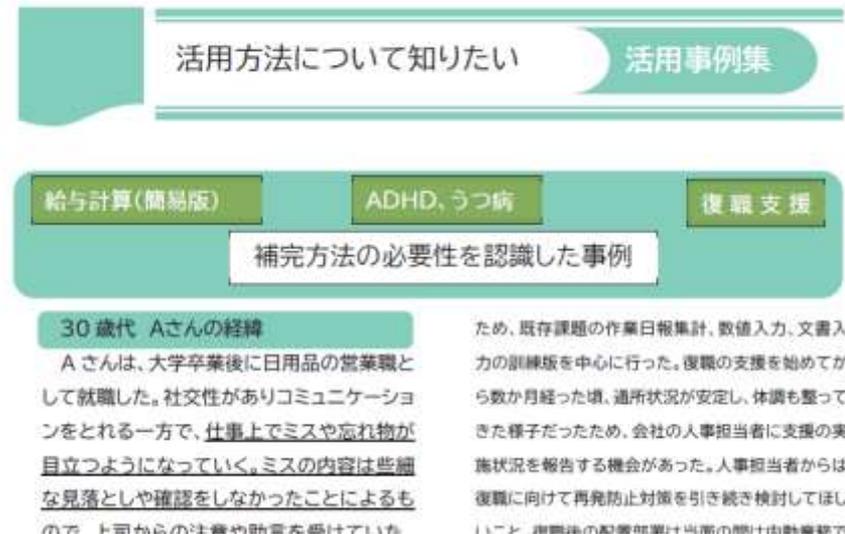
留意事項

- ◆ 簡易版は、「文書に書かれたルールを読み取る力」、「読み取ったルールを的確に運用する力」を把握することも狙いとしている。そのため、作業の途中で正誤のフィードバックを行わないこと、作業内容の助言をしないことが基本となっている。質問があった場合でも、原則として必要な手続きは全てサブブックに書いてあること、サブブックを確認することを伝える。ただし、対象者がサブブックを読んで内容を理解することが難しい場合は、言葉による指示、ジェスチャー、見本の提示、手添え・身体介助など、対象者に適した方法で教示を行ってかまわない。

ハンドブックの具体的内容⑤

「活用事例集」

- ▶ 活用モデルの構成要素がどのように支援に関連付けられるのかを説明する資料として活用事例を提示。
- ▶ 活用モデルと同様「3課題×簡易版/訓練版」の6課題について、ヒアリング調査での事例をもとに作成、提示。



ハンドブックの具体的内容⑥

対象者への対応方法、誘導方法

➤ MWS新規課題を活用する際の対象者への対応方法や誘導方法を盛り込んだ資料として「対象者への対応に迷った時は」を作成。

➤ 「支援の開始時」、「訓練時」、「結果のフィードバック時」の別に記載。

対象者への対応に迷った時は

支援の開始時 ①②③

| | |
|---------------------|----|
| ① 過集中傾向が見られる | 31 |
| ② 課題への違和感を訴える | 31 |
| ③ 課題への理解が進まず時間が経過する | 31 |

訓練時 ④⑤⑥

| | |
|--------------------------|----|
| ④ エラーのフィードバックにより不安感を強くした | 32 |
| ⑤ 訓練意欲の移行の兆候に気づく | 32 |
| ⑥ 補充方法の提案を受け入れてもらえない | 33 |

結果のフィードバック時 ⑦⑧⑨

| | |
|------------------|----|
| ⑦ ネガティブな感情が聞かれる | 33 |
| ⑧ 振り返りが深まらない | 34 |
| ⑨ 結果の受け入れで不安定になる | 34 |

ありがとうございました。